旧醗酵室（現：神谷傳兵衛記念館）

日本の源流
再発見

File 38 茨城県牛久市

「日本のワイン文化」を今に継ぐストーリーが日本遺産に

国産ブドウを原材料として国内で醸造される「日本ワイン」の歴史はおよそ140年。その歩みのなかで、日本のワイン文化の広まりに貢献したとされるのが、茨城県牛久市と山梨県甲州市。その功績と歴史が認められ、2020年6月、「日本ワイン140年史〜国産ブドウで醸造する和文化の結晶〜」が日本遺産に認定されました。

人の思いと豊かな大地が醸す、芳醇（ほうじゅん）なる「日本ワイン」

赤茶色のれんが壁、緑色の屋根と白い時計台。この風格漂う建物は、1903年、実業家・神谷傳兵衛（かみや　でんべえ）によって日本初※の本格的なワイン醸造場として創設された牛久シャトー（旧シャトーカミヤ旧醸造場施設）。現存している旧事務室・旧醗酵室・旧貯蔵庫の3棟は、明治期の貴重な建築物ということが高く評価され、2008年に国の重要文化財に指定されています。

神谷傳兵衛は、洋酒醸造所で働いていた17歳のころ、突然原因不明の病に襲われ、衰弱の一途をたどったそうです。その際、経営者が見舞いとして持参したワインによって命の危機を脱したといわれています。ワインの滋養効果を自身で体験した傳兵衛は「いつか日本人の誰もが飲めるようなワインを国内で造りたい」という思いを募らせます。そして試行錯誤の末に生み出した「蜂印香竄葡萄酒（はちじるしこうざんぶどうしゅ）」は、発売以来今なお愛され続けています。

ボルドー地方の技術を習得し、フランスのワイン醸造場をモデルに、ブドウ栽培から醸造・瓶詰めまで一貫生産していた牛久シャトー。当時醗酵室だった「神谷傳兵衛記念館」には、ワイン造りの過程を伝える貴重な資料が展示され、明治・大正期を駆け抜けた傳兵衛の歩みと、その熱き思いを今に伝えます。2023年、創設120周年を迎える牛久シャトーは、2021年に収穫するブドウを使って醸造

All Rights Reserved,Copyright ©2021,Hitachi,Ltd.

▲ 牛久沼（龍ケ崎市）
水鳥たちが集まる牛久沼は、茨城観光百選に選ばれている憩いスポット。湖畔は、うな丼発祥の地として知られ、グルメを魅了する名店が軒を連ねます

▼ 河童の碑
牛久沼と河童をこよなく愛した画家・小川芋銭。この石碑は、昭和27年に芋銭を敬慕する人々によってアトリエ「雲魚亭」近くに建てられました

▲ 蜂印香竄葡萄酒
神谷傳兵衛が、樽（たる）詰めの輸入ワインに蜂蜜や漢方薬を加えて改良し、1881年に発売した甘味葡萄酒。ほんのり甘く爽やかな香りが好評を博しました

▲ 神谷傳兵衛記念館
明治の時代、国営では果たせなかったワイン造りを、民間の力で成し遂げた神谷傳兵衛の足跡を貴重な資料や写真、当時の醸造器具とともに紹介しています

再開をめざしているそうです。

日本ワインを育んだ自然豊かなこの地域には、牛久沼があります。龍ケ崎市にある牛久沼は、牛久市、つくば市、取手市、つくばみらい市に囲まれ、富士山や筑波山を望み、その見事な景観から多くの画家や文人に愛されてきました。河童（かっぱ）にまつわる伝説も残され、この地を愛した日本画家の一人、小川芋銭（おがわ うせん）は、水辺で遊ぶ河童の姿を生涯描き続け、そのアトリエ近くには、「河童の碑（ひ）」が静かにたたずんでいます。

まだ日本国内にワインが存在しなかった時代に牛久地域の特性を生かしながら、勇猛果敢にワイン醸造に取り組んだ神谷傳兵衛。その足跡に思いをはせながら、日本生まれのワインをじっくりと味わってみませんか。

※ 牛久シャトー Webサイトによる

ココに注目

茨城県の特産品である落花生をはじめ、そら豆や大豆、アーモンドなど100種類もの豆菓子を扱う老舗の名店「味の老舗いしじま」。昔ながらの伝統製法で仕上げた、からいり落花生「源太豆」は、大粒で味わい深く、地元で愛され続ける一品です。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた茨城県には株式会社 日立インダストリアルプロダクツ土浦事業所があります。日立グループの大型産業機器事業を担い、ポンプ、送風機、圧縮機や物流システム、試験装置などの産業機械・装置を生産しています。

株式会社 日立インダストリアルプロダクツ 土浦事業所
茨城県土浦市神立町603番地
https://www.hitachi-ip.co.jp/

All Rights Reserved,Copyright ©2021,Hitachi,Ltd.